



藤田 晃己 議員

問 産直市場の経営統合は。

答 一体化して町内の人を社長に

Q 産直市場の経営統合が議論されているがその後の状況は。

A 町長 経営統合するのではなく3つの産直市場を一体化して、町内の人を社長にしたい。社長の人件費は町から補助していかないと成り立たないと思う。これから検討・研究したい。

A 町長 国の方では在宅介護、在宅医療にシフトして来ている。町立病院の中で地域の包括ケアを積極的に進める。保健・医療・福祉の一体化サービスも行う。

Q 町立病院の機能充実の身は。

A 町長 井関の定住団地では販売済区画に112人は増える。周辺地も販売について検討に値する。

Q 定住促進、田舎暮らし対策の今後の取り組みは。

A 町長 百彩館は、食堂を廃止して客の休憩室・談話室などを考えてみたい。

Q 指定管理に対して外科医の要望は。

A 町長 指定管理に指定した時点で要望しているが、医師不足を理由になかなか答えてもらえない。遺憾に思う。

Q 老朽化した施設で耐震強度がないので建て替えは。

A 町長 町にとって大切な施設であるというインパクトを与えるためには改築をするのも選択肢の一つである。

Q 基幹産業である農林業・観光事業の振興と六次産業化の具体的な推進策は。

A 町長 農業・観光産業と六次産業化を関連をもってやってみよう。第2・第3のトマト団地、ブドウの栽培、和牛の振興を進める。

Q 観光事業としては、仙養ヶ原、スコラ高原を中心とした森林セラピー基地の申請をしている。観光と人間の健康を一体的にやれば、交流人口

が増え定住にもつながる。六次産業については今着々と具体的な計画を進めている。



さんわ182ステーション

Q 荒廃地防止対策は

A 町長 荒廃地は基盤が悪い所が多いので和牛の放牧などを中心に組みたい。



松本 彰夫 議員

問 町立病院のこれからは

答 来年度の早い時期に方針を決定

Q 町立病院は、指定管理者制度により運営されているがその成果と課題は。

A 町長 成果は県立病院と同じ機能を維持できた。そして経費の節減や医療福祉相談室の設置により、きめ細かな対応ができた事などである。課題は、指定管理期間の限定により、安定雇用とならず、職員の不安感が増大した事などである。

Q 形は県病院と同じ機能を維持しているが、内容は低下している面もある。例えば透析患者の

A 町長 小児科に特化した病院も考えてもよいと思うので、検討する。

Q 外科医の採用を望む声が多いが、町が進めている若者定住を進めるためにも、小児科の診察を行うべきではないか。

A 町長 募集は行っていない。今後検討する。

Q 医師不足は、全国的な課題であるが、町立病院として医師の募集を行っているのか。

A 町長 その事が課題でもあるが、定期的に協議して、疎通を図っている。

Q 看護師などの不足も深刻である。現在働いている人に対して、「定着手当」など有資格に対して「資格手当」などを創設して、意欲を持って働けるよう取り組むべきではないか。

A 副町長 指定管理者とも協議し、検討する。



神石高原町立病院

Q 患者の待ち時間の短縮、情報の共有化のためにも、電子カルテを導入したらどうか。

A 副町長 費用対効果も考えながら、検討する。

Q 今後の運営は今までどおり指定管理者制度で行うのか。町の直営で運営する事も検討すべきではないか。

A 町長 全国的に指定管理者制度での運営は少ない。ほとんどの自治体が直営で行っている。直営も視野に入れ検討する。

Q 今後の方針についていつまでに、どのような方法で検討するのか。

A 町長 今年度から検討を始め、新年度の前半には結論をだす。場合によっては、委員会を立ち上げて検討する。

Q 施設もかなり老朽化している。病院の運営方針に合わせ、建て替えも視野に入れながら検討すべきでは。

A 町長 建て替え・改修については、来年度早い時期に町立病院の運営方針、費用対効果と合わせて検討する。